3月
はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校だより
令和６年２月29日発行
白糸中学校区「目指す子ども像」
自ら学ぶ子・人とつながる子
心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子
ＨＰ：shinmaizuru-maizuru.edumap.jp

感謝を伝える

体育館横に並ぶプランターのチューリップの芽がずいぶん大きく伸びてきました。校庭の木々の芽も少しずつ膨らみ始め、いよいよ春です。縄跳びを持った子どもたちが外に飛び出し、ゆめ広場や昇降口前で熱心に練習をする姿を見ることができます。前跳び、二重跳びやあや跳びなど、技に挑戦したり記録を伸ばしたりしています。

２月は、インフルエンザ等の感染症を含む発熱での欠席が多くなり、学級閉鎖をする学級もありました。２月22日（木）に予定をしていたなかよし班での６年生を送る会も３月１日（金）に延期しました。

それでも６年生を送る会に向けて、各学年が役割分担をし、招待状を作って６年生に渡したり、プログラムを書いたり、６年生それぞれの夢を絵で表したり、飾りを作ったりと着々と準備が進められています。出し物の練習も各学年、班ごとに余念がありません。特に５年生は、なかよし班で初めて進行役になり、緊張しながらも、打ち合わせを入念にしています。どの学年の子どもたちもきっと、これまで中心になって進めてくれた６年生の姿を思い起こしながら、準備を進めていることでしょう。そして、６年生への感謝の気持ちを込めて本番に臨みます。

「ありがとう。」きっと、６年生を送る会のときにはたくさん聞かれることでしょう。「ありがとう」という言葉は、本来「有難い」めったにないことや貴重であることを指しています。めったにない出来事に対して感謝することから、一般的にお礼の気持ちを伝えるのに使われるようになったようです。登校班長として、毎日安全に気を付けてくれた。委員会の仕事で学校生活を楽しくしてくれた。けがをしたときに「だいじょうぶ？」と声をかけてくれた。下級生にとって、６年生が自分たちにしてくれたたくさんの出来事が６年生を送る会での「ありがとう」につながっています。６年生にとっては、下級生に対するこのような行動は当たり前なのかもしれません。自分たちも先輩にしてもらったことなのでしょう。こうした何気ない行動が、学校の中に連綿と受け継がれていることはうれしいことです。

日頃「当たり前」だと思っていることにも目を向け、「ありがとう」と言い合えたら素敵ですね。感謝の気持ちを持ち、「ありがとう」と伝えることで幸せホルモンが活発になり、前向きな気持ちになり、やる気がアップするそうです。卒業、進級を控え、がんばる子どもたちと「ありがとう」を伝え合い、気持ちよく年度末を迎えたいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様、いつも温かい見守りをありがとうございます。年度末まであとわずか。子どもたちが健やかに過ごせますようよろしくお願いいたします。　　校長　小森　昌子

登下校の見守りをいつもありがとうございます。

新年度に向けて、新たに見守り隊の活動に参加いただける方を募集しています。普段から挨拶が交わされる地域には、不審者が少ないと聞きます。可能な範囲で、子どもたちの登下校の際に挨拶や見守りをしていただければ幸いです。